

## 第62回 群馬県立文書館運営協議会 議事録

- 1 日時 平成28年7月29日（金）午前10時～11時30分
- 2 場所 群馬県立文書館 3階研修室
- 3 出席者 委員12名（清水真人会長、高木侃副会長、落合延孝委員、長京子委員、小林忍委員、岡屋紀子委員、宮崎俊弥委員、新井小枝子委員、関戸明子委員、鷺頭一郎委員、清水雅委員、野村聡委員）  
幹事 3名（山崎浩通幹事、荒井進幹事、中山勝文幹事）  
事務局8名（石原孝雄文書館長 ほか）

### 4 議事

- (1) 価格評価委員の指名について
- (2) 報告
  - ア 平成27年度事業実績について
  - イ 平成28年度文書館事業実施状況について
  - ウ 文書館の今後の方針と取り組みについて

### 5 発言内容

- (1) 価格評価委員の指名について  
(会長)

はじめに価格評価委員2名の指名を行うことになっている。これは、運営協議会要綱第8条第2項の規定により、会長が指名することになっているので、高木委員、落合委員に引き続きお願いしたいと思うが、いかがか。

—異議なし 拍手・承認—

- (2) 報告  
(事務局)

資料により説明

- ア [平成27年度事業実績について【資料1】](#)
- イ [平成28年度文書館事業実施状況について【資料2】](#)
- ウ [文書館の今後の方針と取り組みについて【資料3】](#)

- (委員)

「出前なんでも講座」の内訳はどのようなものか。また、資料2 県史追跡調査アンケートの結果を受けて、所在不明文書が問題である。これから館としてどのように具体的に取り組んでいくのか。

- (事務局)

「出前なんでも講座」は各地の古文書研究会、同好会から依頼される場合、また市町村の公民館などから社会教育の一環として依頼される場合がある。

また、県史追跡調査であるが、県史編さん当時に約 1,600 件を調査した。すでに 24、5 年経過し、今まで文書調査員に各地域の調査を依頼してきた。文書調査員による調査だけでは難しい面もある。群文協（群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会）を通じて各市町村の文化財担当者に調査をお願いしていかなければならない。そのためにも、古文書の取り扱いを理解していただくために昨年度から「地域史料保存活用の手引き」を作成している。県史追跡調査のアンケートを各市町村と連携して実施し、結果を積み重ねていくしかない。

(委員)

資料 2 p.4 の「学校連携事業」について質問したい。学習支援として、中学校が文書館に出向く形で行われたということであるが、今回対象となったのは前橋市立第五中学校であり、いわば地元の中学校である。館から離れた地域の小中学校でも同様の支援は可能か。

(事務局)

今回「身近な地域の歴史を考える」をテーマに、文書館の学習支援事業を中学校歴史分野の導入として設定した。内容は、二子山古墳の見学、天川村絵図・戦国武将の朱印状の見学・解説、元禄国絵図フロアマットによる実習を行った。学校の受入れは、学校側が交通手段を確保できれば可能である。また、どういう資料を見せたいかは事前に学校側から相談していただく必要があり、学習の目的、資料の撰定を相談できれば受入れが可能である。

(委員)

学校へ赴いての学習支援は可能か。

(事務局)

全县を通して、同一のサービスを提供することが前提である。重要文化財など、資料の性格上持ち出しできない資料もある。資料的な問題をクリアする必要がある。

(委員)

少ない職員数で対応することは難しいかもしれないが、学校に赴く形で実施してほしい。古文書の解説は自分たちの地域の理解につながる。「出前なんでも講座」については、公民館などで実施することによって文書館の存在意義を認めてもらえるのではないか。積極的に実施してほしい。

(事務局)

子供たちにも郷土を誇りに思えるようになってほしい。パネルなどは館外に持ち出せるので、これから学校連携、「出前なんでも講座」を含め積極的に取り組んでいきたい。

(委員)

資料 1 「年報」の p.23 ウェブサイトの古文書講座について質問したい。遠方の方々にとって良い取り組みである。「初心者のお茶の間古文書講座」「チャレンジ！演習ぐんまの古文書入門」「インターネット古文書講座」と 3 種類あるが、この 3 つの古文書講座の違いは何か。

また、インターネットの古文書講座について、現在どのような広報を行っているか。もう一つ、県史追跡調査に関連して、桐生市旧黒保根地域の星野家文書の現状について文書館の方で情報があればお願いしたい。

(事務局)

平成 27 年から「チャレンジ！演習ぐんまの古文書入門」を実施しているが、その前に「初心者のための古文書講座」を平成 25 年から行っている。こちらの方が初心者を対象とした入門を意識したものである。「インターネット古文書講座」は過去に刊行したものを、インターネット上に掲載したものである。対象、内容の差別化を図るために区別している。ウェブを利用しない人にとってはあまり知られていないかもしれない。ウェブ上の古文書講座については、当館で行われる古文書入門講座を終えた際に口頭で案内をしている。積極的に広報をしていきたい。

星野家文書については、現状については文書館として情報をつかんでいない。桐生市の図書館の方が現状を把握していると思われる。早急な対策が必要な場合は、桐生市と県文化財保護課に協議していきたい。

(委員)

広報は全体的に小さな事柄でももっと積極的に記者クラブに投げ込みを行ってほしい。

また、館職員の資質向上は重要である。どのくらいの頻度で研修に参加出来ているか。他県との交流は行っているか。さらに、市町村教育委員会の文化財担当者は、考古の専門はいるが、近世文書を読める人がいない。文書館に専門の人材育成の機能が必要である。県全体を見据えて、市町村文化財担当者に向け古文書解説講座を行う必要がある。館職員の資質向上とともに県内の人材育成を行ってほしい。

(事務局)

広報が弱いとは思っている。県立図書館などに広報の手段を学ばせてもらい、適宜適切に記者クラブへの投げ込みを行いたい。

公文書に関しては国立公文書館の研修には毎年 1 名は参加できるようにしている。また、全史料協全国大会の研修、関東部会研修には、予算の問題を調整しながらできる限り参加している。県内市町村群文協の文化財担当者の集まりとして「地域史料保存活用の手引き」検討委員会を開催している。今年度から「手引き」検討委員会の午前中に、古文書に不慣れな文化財担当者を対象として年 5 回の研修会を実施している

(委員)

積極的に進めてください。

(委員)

古文書講座の修了者が 4,000 人を越えたということだが、受講希望者数は受講者数を大きく上回っているのか。古文書に関心を持つ人が増えている。古文書講座の将来について、どのように考えているか。

(事務局)

資料 1 p.16「古文書入門講座」について、定員 40 人のところ 140 人余の申し込みがあった。研修室、駐車スペースの関係で受講者は 80 人が限度である。毎年、受講定員を上回った応募がある。応募する方はリピーターが多いので、初めて受講される方を優先している。回数を増やしてほしいという声もあるが、職員への負担が大きく難しい。インターネット上の講座や「出前なんでも講座」を活用してもらいたい。

(委員)

「チャレンジ！演習ぐんまの古文書入門」のアクセス数の向上はめざましい。ウェブ講座のアクセ

ス数は来館者に結びついているか。群馬県立女子大学の学生は、日頃から原文で「源氏物語」を読むなど変体仮名への抵抗が少ない。学生時代から専門的人材を育てていきたい。また、Facebookなどで情報発信を考えているか。

(事務局)

ウェブのアクセス数、閲覧者数ともに伸びているが、相関関係については不明である。また、FacebookなどのSNSの使用について、今年度実施を考え準備検討を行っている。

(委員)

SNSはホームページとの連携も可能であるので、積極的に活用してほしい。

◎資料

- ・ [資料1 『群馬県立文書館年報』平成27年度版](#)
- ・ [資料2 平成28年度事業実施状況](#)
- ・ [資料3 「文書館の今後の方針と取り組み」の進捗状況](#)